

令和4年度 奈良県立王寺工業高等学校 学校評価総括表	
【高等学校用】	
年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	工学的な知識・技術を活用し、グローバルな視点を持ちながら地域コミュニティを支えるグローバルな人材の育成
年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒の挑戦を応援し、支える取組を全ての教育活動で実施する</li> <li>生徒一人一人が主体的に学ぶことが出来る環境を整備・充実する</li> <li>楽しい授業・わかりやすい授業を通して、基礎・基本の確実な定着をはかる</li> </ol>

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 <ol style="list-style-type: none"> <li>「ものづくり」に興味・関心があり、技術等の習得に前向きに取り組む生徒</li> <li>規律を守り、意欲的に高校生活を送りたいと強く思っている生徒</li> <li>チャレンジ精神旺盛で、協調性を持って目標に挑戦する生徒</li> <li>専門知識と技能を習得し、資格取得や検定合格に取り組む生徒</li> </ol>
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の精神に徹し、正しい生き方の自覚を深め、社会連帯の精神を養うとともに、人間性豊かな生徒の育成に努めます。</li> <li>基礎学力の定着を図り、専門的な知識と技術を習得させるとともに、創造的な知性・技能を育てます。</li> <li>正しい判断力と強い意志力、たくましい心身を育てるとともに、自律的な生活態度を養います。</li> <li>体験的な学習や実践を通して、正しい職業観や勤労観を身につけさせるとともに、自信と意欲をもたせます。</li> </ul> 本校では上記の教育方針の下、その実現に向けた以下のような教育を行います。 <ol style="list-style-type: none"> <li>生きる力の基礎、心身ともに豊かな人間性を育成する普通教科と、社会形成能力を育成する専門教科を実践します。</li> <li>普通教科を中心とした基礎学力の定着から、工業（特に機械、電気、情報）に関する専門教科を座学や実技を通して協働的・実践的・体験的に学ぶ教育を実践します。</li> <li>グローバルに活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を養成するための教育を実践します。</li> <li>課題対応能力を育成するため、学校設定科目・課題研究では、協働型・問題解決型・探究型学習を実践します。</li> <li>グローバルな人材を育成するため、地域や産業界との連携を図り、就業体験学習等を通してキャリア教育を実践します。</li> </ol>
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>主体的に社会を生き抜くために必要な、自ら行動する力・考える力</li> <li>真理の探究に向け、自ら学び、協働的に粘り強く挑戦する力</li> <li>専門知識技能、ものづくり力を身につけ、コミュニティ（特に工業分野）に貢献できる力</li> </ol>

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良のびろ推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせ育てていく	・健康教育の充実	・教育相談（カンセリング等）の満足度を高める	・教育相談室利用アンケートの実施			
	・食育の推進	・朝食摂取率90%以上	・朝食摂取率70%以上			
2. 学び力、考え力、探求する力を育てていく	・体力の向上と運動習慣の定着	・体育実技授業への積極的な参加を促すことと、必要な支援を確保する。 ・新体力テスト平均Tスコア5.0、0以上 ・学校行事や体育授業を通して、運動習慣の定着を目指す	・ICT等を活用、知識として体育実技への興味・関心を高める。 ・新体力テスト平均Tスコア7.3以上			
	・主体的・対話的で深い学びの実現	・授業系科目における授業アンケート（授業満足度70%以上）	授業改善アンケートを2回実施			
3. 働く意欲と働く力を育てていく	・教職員の前向き向上	・各1学級の授業に関する教員研修回数（年4回）	・観点別評価に関する職員研修を4回実施			
	・ICTを活用した教育の推進	・普通科を含めたすべての授業アンケート（ICTを適切に使用している）70%以上が科目自覚の半数を超える	授業においてICT機器を活用した授業を推進し、情報活用能力の向上をはかる			
4. 地域で協働して活躍する人材を育てる	・安全安心な教育現場の整備	・科目実習や課題研究の授業アンケート（「安心、安全な教育現場を実現している」70%以上）	・安全に実習等の実技が行えるよう機械から工具・機械の使用について安全確認を行う。 ・科目実習や課題研究の授業アンケート「安心、安全な教育現場を実現している」70%以上			
	・キャリア教育・職業教育の推進	・インターンシップの実施（参加者95%以上） ・卒業生による進路講演会の実施（企業12社以上、進学生2校以上）	・インターンシップの充実を図るため、2年生には進学、就職の希望とは関係なく参加を促す。 ・卒業生による進路講演会を実施予定。			
5. 地域で個性が輝く環境づくりをつくる	・特別支援教育の推進	・進路講演会の実施を各学年1回以上 ・基礎力診断テストの実施（1学年2回、2学年2回、3学年は5回）	・進路講演会を各学年で、実施を予定。講演会を通してキャリア教育を行う。 ・基礎力診断テストのデータを活用する時に、担任からアドバイスをするなど、基礎力向上を目指す。			
	・地域との連携・協働推進 ・高大連携	・学校運営協議会を活用し、地域の意見や期待を踏まえ学校運営を行う ・進学希望者に対するアカデミックインターンシップを実施	・大阪電気通信大学の高大連携により、アカデミックインターンシップを実施予定。今後は他の大学でもできるように参加者も増やしたい。			
6. グローバルな人材の育成	・地域社会に貢献する人材の育成	・土工機デフォルシステムの実施（参加学年・クラス0%程度） ・県内企業と就職したいと考える生徒数の割合35%→40%以上	・参加学年・クラスの10%程度を維持。 ・県内企業の割合36.8%から40%程度まで増やしたい。			
	・グローバル人材の育成	・英語検定の合格者数を現状の1.5倍を目指す ・アンケート調査をとり、早期発見につなげる	・英検合格者を現状の1.1倍にする			
7. 地域で個性が輝く環境づくりをつくる	・いじめ・不登校等への対策	・特別支援委員会が認定した生徒への必要な支援を行う。	・校内で統一された様式を使用した、個別の支援計画の作成			
	・多文化共生教育の推進（外国人児童生徒等への対応）	・「3年間の人権教育計画に沿ったHRの実施率90%以上」	・人権教育計画に沿ったHRの実施率70%を維持			
8. 地域で個性が輝く環境づくりをつくる	・学校教育における人権教育の推進	・「人権を確かめよう」JTBで年7回発行して全生徒と職員に普及する	・「人権を確かめよう」JTBで年7回発行して全生徒と職員に普及する			

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--